特集 医療AIの普及拡大とさらなる展開

Ⅱ　医療AIのための人材育成の現状と展望

4.「未来の医療を創る“医療人2030”育成プロジェクト」が次世代医療を救う！

小林　泰之　聖マリアンナ医科大学医療情報処理技術応用研究分野

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は，2019年12月に中国の武漢市で「原因不明のウイルス性肺炎」として確認されて以降，世界的に感染が拡大して，2020年3月11日に世界保健機関（WHO）によりパンデミック宣言が行われた。日本では，2023年5月8日，COVID-19は5類感染症へと移行してようやく収束に向かっているが，いまだ医療現場ではCOVID-19に対応するためのさまざまな課題が山積している。また，医療費の高騰もいよいよ危機的状況で，働き方改革も待ったなしである。医療を取り巻く状況が急激に変わりつつある中，患者・人間中心の次世代医療を創り支えていくには，AI/ICTなどの最新テクノロジーを活用すること，常識にとらわれずにイノベーションを起こすこと，さまざまな産業とのコ・クリエーション（共創）を起こすこと，そして，デジタルネイティブ世代の若い人材に参画してもらうことがきわめて重要だと考える。しかし，そうした未来の医療を創るためのイノベーション人材はきわめて不足しており，新時代の医療人材の育成が急務である，という認識の下，本学では「未来の医療を創る“医療人2030”育成プロジェクト」を立ち上げることになった。本プロジェクトの対象は，医療現場で奮闘されているすべての医療従事者，および新しい医療サービスの共創をめざす企業の方々である。10～20年後のAI/ICTの成功は約束されている。最新テクノロジーを活用した患者・人間中心でデータ駆動型の次世代医療を実現するための，そして，個人および企業がこれからの変革の時代を生き抜くために必須の「道具」を配りたいというのが本プロジェクトの趣旨である。本プロジェクトで育成される「医療人2030」が，これからの日本の医療や社会を変える原動力となると確信している。

人間中心の次世代医療を創ることのできる「医療人2030」とは？

AI時代やパンデミック時代など，社会や医療を取り巻く環境の劇的な変化に対応して次世代医療を実現させるためには，①従来の常識からの脱却，②医療以外の分野との異種融合，③デジタルネイティブ世代の積極的登用が重要である。

ソニーコンピュータサイエンス研究所所長の北野宏明氏は，「一人の研究者が複数の分野をよくわかっているときに新しいものが生まれる確率が高い。それは，自分の中で複数の分野を越境しているからです」と述べている。元リクルート社・元奈良市立一条高等学校校長で教育改革実践家である藤原和博氏は，「3つの異なった領域でそれぞれ100人に一人の存在になることで掛け算（1／100×1／100×1／100）により，オリンピックのメダリスト級の希少性，100万人に一人の希少性を持つ人材となり得る」とした。また，ヤフー社の安宅和人氏は，「これからの未来を創るカギになるのは，普通の人とは異なる『異人』である」とし，異人とは「ある領域でヤバイ人。夢を描き複数の領域をつないで形にする人。どんな領域でも自分が頼れるすごい人を知っている人」と定義している。すなわち，新しい時代を切り開きイノベーションを創出するには，より多くの異なった複数のタグを身につけることが求められているのである。

〈0913-8919/23/￥300/論文/JCOPY〉